

平成25年度 終了評価書

研究機関 : 京セラコミュニケーションシステムズ(株)

研究開発課題 : 災害時におけるケーブルテレビ応急復旧システム(幹線応急復旧用無線伝送装置)の研究開発

研究開発期間 : 平成23 ~ 24年度

代表研究責任者 : 北原 雅宗

■ 総合評価(SABCDの5段階評価) : 評価A

■ 総合評価点 : 22点

(総論)

実用的な装置開発がなされており、当初の目標を達成したと認められる。

(コメント)

- 商品化に向けて大きく進展したことは評価できる。ただし、この分野の技術進展は極めて早く、また、使用頻度が高いとは思われないため、費用対効果の観点から、どのような考えをもって所有すべきかを検討する必要がある。
- 通常時において、固定局として運用することも重要であると思われる。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

通信インフラを破壊するような大災害の発生は否定できないことから、この種の研究開発を実施したことは、現在でも有用であると判断できる。

(コメント)

- 災害時のケーブルテレビ復旧のための無線伝送装置は重要である。
- 日本全国どこでも起こりうる東日本大震災規模の災害においては、本研究開発の目標と政策的位置づけは大変重要である。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

固定局に関する従来技術をベースにしているとは言え、1年間という短い研究開発期間を考慮すれば、十分な成果が得られたと判断される。

(コメント)

- 装置自体は一社での開発でマネジメントに問題ない。
- 予算が節約できており、費用削減の努力が認められる。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

十分な成果が上がっていると認められ、一部当初計画になかった成果が得られている。

(コメント)

- 相当数の項目において、当初目標を大幅に満足したことは高く評価できる。
- バンドパスフィルタの作製など一部当初計画になかった成果が得られている。
- 部分的には目標に届かない仕様もあるようであるが、全体としては満足できる結果である。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

十分な活動実績があると認められる。

(コメント)

- 学術的観点よりも、商品化に重点がおかれた研究開発である点から、報道実績が多数を占めたことは納得できる。
- 装置開発はおおむね成功しているが、特許位は申請できないか。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

商品化に向けた方針が明確に記述されており、販売計画があり、社会展開が予定されている。

(コメント)

- どの程度の販売規模になるかはケーブルテレビ会社などの財政状況に大きく依存する。
- 特に優れているというわけではないが、実用化及び製品化に対して検討がなされている。